



黒羽茶の茶摘みを体験する農村体感ツアーの参加者
(27日、大田原市で)

農村の自然と食満喫

栃木県都市住民の体験ツアー

【とちぎ】都市住民に栃木県内の農山村の魅力を知ってもらおうと、県は27、28の両日、「栃木を感じる農村体感ツアー」を展開している。首都圏などから約20人が参加。自然の中で茶摘みなどを体験し、栃木の中山間地域の秋を楽しんでいる。県がこうしたツアーを開くのは初めて。

JR東京駅を出発した一行は27日、「道の駅うつのみや ろまんちっく村」を経由して、大田原市須佐木地区の茶畑に到着。地域おこし団体「みやぞあづまっぺ協議会」の鈴木一利会長らの出迎えを受けた後、茶摘みに取り掛かった。

参加者は同協議会員らの指導を受け、爽やかな秋空の下、丁寧に茶葉を摘み取った。東京から参加した大貫玲子さんは矢板市の出身。「観光地ではない地域を巡る機会はないので楽しい」。福留久美子さんも「普段はスーツにハイヒールの生活なので、気分転換になる」と笑顔を見せた。

昼食には地元野菜を使った煮物や漬物、とれたての新米などが振る舞われ、同地の茶から作った手製紅茶も試飲した。28日には那須烏山市での烏山和紙選びや「国見の棚田」の見学、女性農業者が運営する農村レストランでの食事などを楽しむ。

県は参加者からアンケートを募り、今後の課題やニーズを把握。その結果を踏まえ、他地域での開催も検討していく。